

目指す学校像	○子どもたちが粘り強く学び合い、3つのGで成長する学校○教職員が情熱とプロ意識をもち互いに支え合い、「チーム大久保東」として挑戦する活気ある学校○コミュニティ・スクールとして学校、家庭、地域がそれぞれの役割を果たし、連携し信頼し学び合う開かれた学校
重点目標	1 情報端末の活用を活かした学びの自律化及び授業改善による個別最適な学びと協働的学びの実現 2 豊かな人間性を育む積極的生徒指導及び教育相談体制と安心・安全な学校環境づくりの推進 3 CSとして学校、家庭、地域が役割を果たし連携し信頼し学び合う開かれた学校づくりの推進 4 持続可能で誰もが居心地のよい(Well-Being)学校をつくる教職員研修と働き方改革の充実

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学校自己評価			年度評価			学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日令和 年 月 日	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査では国語、算数ともに平均正答率が伸びてきている。 ○全国学力・学習状況調査では学習意欲に関する質問に肯定的な回答をした児童が市平均を上回り学習に意欲的な結果が見られている。 ○全国学力・学習状況調査では自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことや話し合う活動から考えを深めたり広げたりすることに肯定的な考えをもつ児童が多い。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、特に国語の「知識・技能」及び「書くこと」の設問について、算数では「数と計算」について、主に基礎学力に課題がある傾向が見られている。	・情報端末を活かした学びの自律化と授業改善による個別最適な学びと協働的学び ・学ぶ楽しさを実感できる「大久保東小 STEAMS TIME」	①国語、算数について、スタディサプリやドリルパークなどの学習状況から基礎学力に対する自学の取組状況を把握し児童が目標をもって学習できるようにする。 ②オクリンクなどICTを活用して学び合いの意欲を高め、学びを深める協働的な学びを進める一方で「書く」学びも確保するバランスの取れた授業改善を図る。 ①プログラミング思考を育成するための指導計画を作成する。 ②プロジェクト学習を基にした授業改善を図る。	①国語、算数について、毎学期2回以上基礎学力における自学の取組状況を基に学習相談を行うことができたか。 ②年2回の管理職による授業参観や市教委の指導訪問、毎日の授業等で授業改善が見られたり、職員による学校評価で関連項目の評価上昇が表れたりしたか。 ①指導計画を確実に実施したか。 ②総合的な学習の時間で「考える」「つくる」「ためす」の時間が十分に確保されていたか。					
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は全国、市の平均を上回っている。 ○昨年度のけがの状況について登下校時の南門から昇降口までの間のけがや休み時間の校庭でのけがが多数発生している。医療機関を受診したけがも多々見られた。 (課題) ○コロナ禍におけるストレスや先の見えない不透明感、或いは家庭内トラブル等により児童の心身に与える影響が大きいことから、今後も児童一人ひとりの状況を的確に把握し組織的に支援・相談できる体制づくりを強化する。 ○教職員による毎月の安全点検を確実に行うだけでなく、児童自らが危険を予測したり回避したりする力の育成が必要である。	・家庭、地域、関連機関と連携を図り、心を育む生徒指導・教育相談の充実 ・安全な生活の実現に主体的に取り組む児童の育成に向けた教育活動の充実	①全学級で毎日互いに認め合う時間を設定して伝え合い、よさや個性を認め伸ばして自己肯定感を高めることによって自尊感情の醸成を図る。 ②毎学期初めに「こころと生活のアンケート」を実施し全児童の面談を確実に実施しSCやSSW、さわやか相談員と児童や家庭をつないだりすることにより積極的生徒指導や教育相談体制を構築する。 ①けがマップの作成により情報端末を活用して校内におけるけがの発生場所、件数、原因などを分析してけがの予防に努める。 ②学校保健委員会や保健朝会等で児童委員会等による安全な生活について目標や報告、注意喚起等を設定する。	①児童及び職員による学校評価で関連項目の評価が80%以上となったか。 ②「こころと生活のアンケート」実施後に全児童の面談を行ったか。また、児童による学校評価で関連項目の評価が80%以上となったか。 ①けがの状況等について昨年度と比較して改善された数値が現れているか。 ②児童による学校評価で関連項目の評価が80%以上となったか。					
3	(現状) ○令和元年度からコミュニティ・スクールとして学校運営協議会を立ち上げ、目指す児童像について熟議を重ね、学校、家庭、地域がそれぞれの役割を果たしながら健やかな子どもの成長を支えることを共有している。 (課題) ○今年度に学校運営協議会で共有した目指す児童像などについて、家庭、地域と共有する。またその実現に向けた方策について熟議し、継続的な取組など進める。	・学校の取組や児童の様子について地域全体で共有するためのICT活用及び教育活動の公開 ・家庭の生活及び学習の充実につながる大久保東コミュニティの策定と実施	①学校HPに学校運営協議会及びSSNの情報発信をする内容を取り入れ、熟議の内容や目指す児童像等を家庭、地域と広く共有できるようにする。 ②学校行事や児童の活動や成長の様子等について学校だより等に継続的に掲載することにより家庭や地域等の関心を高める。 ①学校運営協議会の熟議にてプランを検討する。 ②学校運営協議会やSSNに検討したプランの理解を求め実施する。	①学校HPに学校運営協議会及びSSN等の情報を発信し広く共有することができたか。 ②保護者や学校運営協議員による学校評価で関連項目の評価が80%以上となったか。 ①プランを検討し策定するまでに至ったか。 ②プランの理解を求め実施することができたか。					
4	(現状) ○一人一台タブレットやICTの活用による新しい学び方についてエバンジェリストを中心に校内研修を重ねてきた。 ○高学年教科担任制の実施により、担当教科についてより深い教材研究ができた、学年全体で充実した生徒指導ができた、している。 (課題) ○ICTの活用について教員間で取組等の差が見られる。取組や質の向上を図り、誰もが学び続けられる職場環境づくりが求められる。 ○教員同士の相互補完的な意識の醸成や環境づくりの構築が求められている。	・ICT活用に臆することなく持続可能で職員一人ひとりが力を発揮できる居心地のよい(Well-Being)学校づくり	①毎月1回校務や授業でのICT活用方法についてすべての教員が学ぶ校内研修を実施する。 ②一人一人の教員が児童の付けたい力について年度当初に目標を設定し、目標達成に向けた授業を年間3回以上公開することを実施する。 ③仕事の効率化と確実性を図るデータの蓄積と共有化を図り「大久保東小データバンク」を作成する。	①教員が日常的にICTを活用する状況になったか。 ②教員達成状況面談にて教職員自己評価シートに明記された学習指導について達成されたか。 ③「大久保東小データバンク」を作成し教職員で共有できたか。					

